

古文ドリル：「らむ」の用法識別 100問

対象：高校生・大学受験生（共通テスト～難関私大・国公立二次まで） **著作権：**個別指導塾フィット / 中本裕太

はじめに：「らむ」の3用法

古文の助動詞「らむ」は、終止形接続（ラ変型の語には連体形接続）の **現在推量** の助動詞。文中での働きが3パターンあります。

用法	訳	判別ポイント
① 現在推量	今ごろ～ているだろう	目に見えない所の今を思いやる。文末。「いつこ・何・いかに（どのように）・誰」で場所・中身・様子・人をたずねる文もここ
② 原因推量	（どうして）～なのだろう	目の前の事実の理由を推し量る。「など・なぜ・いかで（どうして）・何ゆゑ」と呼応。疑問の語がなく「どうして」を補う文もある
③ 伝聞・婉曲	～とかいう・～のような	体言の前

③は「伝聞・婉曲」とまとめて覚える用法です。このドリルでは③の答えを「婉曲」と書きます（「～とかいう」と訳せる伝聞もふくみます）。

識別の鉄則

- 直後を確認：**体言なら婉曲、文末なら推量
- 疑問の語を確認：**「など・なぜ・いかで（どうして）」のように理由をたずねる語なら原因推量。
「いつこ・何・いかに（どのように）・誰」のように場所・中身・様子・人をたずねるだけなら現在推量。疑問の語がなくても、目の前の事実「どうして」を補って通れば原因推量
- 「今ごろ」を当ててみる：**「今ごろ～ているだろう」と訳して通れば現在推量（「今ごろ」は訳に使うことばで、平安時代の古文にはふつう出てこない）

🎯 解き方のコツ（時短テクニック）

「識別の鉄則」は見分けの基本の考え方。
こちらは **試験本番ですばやく答えを出す** ための実戦テクニックです。

コツ① 「らむ」の直後をまず見る

- ・直後が **体言（名詞）** → **婉曲・伝聞**「～のような／～とかいう」
- ・直後が **句点（。）**／**文末** → **現在推量**「今ごろ～ているだろう」か **原因推量**「どうして～のだろう」（コツ②で見分ける）
- ・「**らめ**」の形なら **已然形**：係助詞「こそ」の結びか、「ど・ども」が続く形（～ているだろうが）。用法は意味で決める
- ・これで3用法の入り口が決まる。

コツ② 疑問の語が何をたずねているかを見る

- ・「**など・なぞ・いかで（どうして）・何ゆゑ・いかなる故**」のように **理由** をたずねる語 → **原因推量**「どうして～のだろう」。「いかに」も「どうして」の意味なら原因推量
- ・「**いづこ・何・いかに（どのように）・いかにして・誰**」のように場所・中身・様子・やり方・人をたずねる語や、「雨や降る**らむ**」のように起きているかどうかをたずねる「や・か」 → **現在推量**「（今ごろ）～ているのだろうか」
- ・疑問の語がなくても、目の前の事実に「どうして」を補って通れば **原因推量**（例：「風も吹かぬに、花の散る**らむ**」＝風も吹かないのに、どうして花が散っているのだろう）。已然形＋「ば」＋「や」（思へばや＝思うからだろうか）や「～しにや」（～するためだろうか）のように、理由を表す部分に疑問の「や」が付く形も原因推量。

コツ③ 訳語「今ごろ」を当ててみる

- ・「今ごろ～しているだろう」と訳して文意が通れば **現在推量**。
- ・目の前の事象でなく、**遠い場所・離れた人物**の今を想像する文脈で出るのが典型。
- ・例：「都には桜咲く**らむ**」（都では今ごろ咲いているだろう）。「今ごろ」は訳に使うことばで、本文にはふつう出てこない。

コツ④ 「らむ」の前が終止形かチェックすれば誤読が消える

- ・終止形＋「らむ」が原則。う変型の語（あり・をり・侍り、助動詞「たり・り・なり」、打消の「ざる」、形容詞の「～かる」、形容動詞の「～なる」）は連体形に付く。
- ・「**あらむ**」は **う変「あり」未然形「あら」＋推量「む**」で、「らむ」ではない（「らむ」なら「ある**らむ**」）。「取らむ」（四段の未然形）・「よからむ」（形容詞の未然形）・「咲けらむ」（完了「り」の未然形）・「いかならむ」（形容動詞の未然形）も、上の語の「ら」＋「む」。

試験本番でのチェック順序

1. 「らむ」の **前が終止形** か確認（う変型の語なら連体形）→ そうでなければ別の助動詞を疑う
2. **直後** を見る（体言→婉曲、文末→推量）
3. **疑問の語** を探す（「など・なぞ・いかで」など理由をたずねる語→原因推量。「いづこ・何・いかに（どのように）」など→現在推量）

4. 「今ごろ」を当てて訳が通れば現在推量。目の前の事実「どうして」を補って通れば原因推量
→ この順番で見れば、迷わずに答えが出ます。

よくある引っ掛け

- 「あらむ」「侍らむ」を「らむ」と誤判定 → う変「あり」「侍り」の未然形+推量「む」。前を確認
- 「らん」は「らむ」と同じ語（「む」を「ん」と書いたもの）
- 体言の前でも「今ごろ～ているだろう○○」と現在推量に訳せる例があり、そうとる説もある。
このドリルでは、体言の前の「らむ」は婉曲と答える
- 疑問の語があるだけで原因推量にしない。「何を見かえるらむ」「いつこにか住むらむ」は、中身や場所をたずねる現在推量

採点表

- 基礎（Q1～Q20）： /20
- 標準（Q21～Q50）： /30
- 応用（Q51～Q80）： /30
- 入試レベル（Q81～Q100）： /20
- 合計： /100

【第1部】基礎編（Q1～Q20）

3用法を識別する基本問題。

Q1. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

都に雪降るらむ。

答え：現在推量 **解説：**文末で「今ごろ降っているだろう」。

Q2. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

など花散るらむと嘆く。

答え：原因推量 **解説：**「など」（古文の疑問副詞「どうして」）と呼応。「どうして花が散るのだろうと嘆く」。古文では「なぜ」ではなく「など・なぜ・いかで」を用いる。

Q3. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

唐土に伝はるらむ書物。

答え：婉曲 解説：体言「書物」の前。「中国に伝わっているような／とかいう書物」。

Q4. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

春の野に若菜摘むらむ。

答え：現在推量 解説：文末。「今ごろ春の野で若菜を摘んでいるだろう」。

Q5. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

いかで、かく世の人をも知るらむ。

答え：原因推量 解説：「いかで」（＝どうして）と呼応。「かく」（このように）とあるので、世の人のことまで知っているという目の前の事実の理由をたずねる原因推量。「どうしてこんなに世の人のことまで知っているのだろうか」。

Q6. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

山にこもるらむ僧。

答え：婉曲 解説：体言「僧」の前。「山にこもっているような僧」。

Q7. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

君は今、何思ふらむ。

答え：現在推量 解説：「何」は思っている中身をたずねる語で、理由（どうして）をたずねる語ではない。目の前にいない相手の今の心を思いやる現在推量（疑問）。「あなたは今ごろ何を思っているのだろうか」。

Q8. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

雨降るらむ夜半。

答え：婉曲 解説：体言「夜半」の前。「雨が降っているような夜中」。

Q9. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

なぞ春雨かく降る**らむ**。

答え：原因推量 **解説：**「なぞ」(=どうして)と呼応。「どうして春雨はこんなに降るのだろう」。

Q10. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

人の雪かと見る**らむ**桜。

答え：婉曲 **解説：**体言「桜」の前。上一段動詞「見る」終止形+「らむ」。「人が雪ではないかと思えるような桜」。

Q11. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

旅人は今、いづこへ向か**ふらむ**。

答え：現在推量 **解説：**「いづこ」(どこ)は場所をたずねる語で、理由をたずねる語ではない。目の前にいない旅人の今を思いやる現在推量(疑問)。「旅人は今ごろ、どこへ向かっているのだろうか」。

Q12. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

月の都の人、今いかに住**むらん**。

答え：現在推量 **解説：**「住む」終止+「らん」(=らむ)。「月の都の人は、今ごろどう住んでいるのだろう」。

Q13. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

北の方は涙にむせ**ぶらむ**。

答え：現在推量 **解説：**文末。「北の方は今ごろ涙にむせているだろう」。

Q14. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

散る花も惜しまる**らむ**春。

答え：婉曲 **解説：**体言「春」の前。「散る花も惜しまれるような春」。

Q15. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

いかなる故にて来らるらむ。

答え：原因推量 解説：「いかなる故にて」（=どんな理由で）と呼応。「どのような理由で来られるのだろう」。

Q16. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

月の都に住むらむ人。

答え：婉曲 解説：体言「人」の前。「月の都に住んでいるような人」。

Q17. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

大空に響くらむ雷の音。

答え：婉曲 解説：体言「雷の音」の前。「大空に響いているような雷の音」。

Q18. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

都に花は咲くらむ。

答え：現在推量 解説：文末。「都では今ごろ花が咲いているだろう」。

Q19. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

など人は嘆くらむ。

答え：原因推量 解説：「など」（=どうして）と呼応。「どうして人は嘆くのだろう」。

Q20. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

山陰に咲くらむひと枝の梅。

答え：婉曲 解説：体言「梅」の前。「山陰に咲いているようなひと枝の梅」。

【第2部】 標準編 (Q21～Q50)

文脈、係り結び、敬語が絡む応用問題。

Q21. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

故郷を発ちて、いま誰か待つ**らむ**と思ふ。

答え：現在推量 **解説：**「誰か」は「誰が～か」（「か」は疑問の係助詞で、結びは連体形「らむ」）。待っている人をたずねる語で、理由はたずねていないので現在推量（疑問）。「(故郷を出発して) 今ごろ誰が（私を）待っているのだろうかと思う」。

Q22. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

春や来ぬ**らん**。

答え：現在推量（疑問） **解説：**係助詞「や」（疑問）＋カ変「来」連用形「き」＋完了「ぬ」終止形＋「らん」（＝らむ。「や」の結びで連体形）。春が来たかどうかをたずねる現在推量（疑問）。「春が来たのだろうか」。

Q23. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

なぞ世の人は心狭かる**らむ**。

答え：原因推量 **解説：**「なぞ」（＝どうして）と呼応し、理由をたずねるので原因推量。形容詞「心狭し」の連体形（カリ活用）「心狭かる」＋「らむ」（形容詞には「～かる」の形で付く）。「どうして世の人は心が狭いのだろう」。

Q24. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

蛍の光、明らかなる**らむ**草の上。

答え：婉曲 **解説：**体言「草の上」の前。「蛍の光が明らかであるような草の上」。

Q25. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

我れは知らねども、人は知る**らむ**。

答え：現在推量 **解説：**文末で「人は今ごろ知っているだろう」（自分は知らないが、他人は知っているだろう）。

Q26. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

いかでこの音を、かく聞き入り給ふ**らむ**。

答え：原因推量 **解説：**「いかで」（=どうして）＋「給ふ」（尊敬）＋「らむ」。「かく」（このように）とあるので、目の前でお聞きになっている事実の理由をたずねる原因推量。四段動詞「聞き入る」連用形「聞き入り」＋「給ふ」終止形＋「らむ」。「どうしてこの音を、こんなに熱心にお聞きになっているのだろう」。

Q27. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

月かたぶく**らむ**夜半に、起きて見る。

答え：婉曲 **解説：**体言「夜半」の前。「月が傾いているような夜中に、起きて見る」。

Q28. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

都の人は花見つ**らむ**。

答え：現在推量 **解説：**文末。完了「つ」終止形＋「らむ」（「らむ」は終止形接続）で「今ごろ（もう）見てしまっているだろう」。

Q29. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

など春雨も降る**らむ**、わが嘆く時に。

答え：原因推量 **解説：**「など」（古文の疑問副詞「どうして」）と呼応。「どうして春雨も降るのだろう、私が嘆く時に」。

Q30. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

御前の物見させ給ふ**らむ**こと、いとあはれなり。

答え：婉曲 **解説：**体言「こと」の前。「ご覧になるようなことが、しみじみと趣がある」。

Q31. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

月かげに、影うつるらむ池の面。

答え：婉曲 解説：体言「池の面」の前。「月の光に影が映っているような池の表面」。

Q32. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

山深く、嵐吹き荒ぶらむ夜半に、独り嘆く。

答え：婉曲 解説：体言「夜半」の前。「山深く嵐が吹き荒んでいるような夜中に、独り嘆く」。

Q33. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

君は何ゆゑに泣き給ふらむ。

答え：原因推量 解説：「何ゆゑ」（=どんな理由で）と呼応。「あなたはどのようにお泣きになるのだろうか」。

Q34. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

都にもいま春來たるらむ。

答え：現在推量 解説：「いま」＋文末。「都でも今ごろ春が来ているだろう」。

Q35. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

海辺に立つらむ人。

答え：婉曲 解説：体言「人」の前。「海辺に立っているような人」。

Q36. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

飛ぶ鳥の心、君や知るらむ。

答え：現在推量 解説：「や」は疑問の係助詞で、結びは連体形「らむ」。「あなたは知っているか」をたずねているだけで、理由はたずねていないので現在推量（疑問）。「飛ぶ鳥の心を、あなたは知っているのだろうか」。

Q37. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

夕暮れの空を渡る**らむ**雁。

答え：婉曲 **解説：**体言「雁」の前。四段動詞「渡る」終止形+「らむ」。「夕暮れの空を渡っているような雁」。

Q38. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

なほ慕ふ**らむ**心、いかに。

答え：婉曲 **解説：**体言「心」の前。「なお慕っているような心は、どうであろうか」。

Q39. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

月の都を出でて、いま誰を恋ふ**らむ**。

答え：現在推量 **解説：**「誰を」は人をたずねる語で、理由はたずねていないので現在推量（疑問）。上二段動詞「恋ふ」終止形+「らむ」。「月の都を出て、今ごろ誰を恋しく思っているのだろうか」。

Q40. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

寒けき夜半に、独り眠る**らむ**人。

答え：婉曲 **解説：**体言「人」の前。「寒い夜中に独り眠っているような人」。

Q41. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

嵐山の紅葉、今いかに散る**らむ**。

答え：現在推量 **解説：**「いかに」（どのように）は様子をたずねる語で、理由はたずねていないので現在推量（疑問）。目の前にない嵐山の今を思いやっている。「嵐山の紅葉は、今ごろどのように散っているのだろうか」。

Q42. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

春の野に咲く**らむ**花を見ばや。

答え：婉曲 **解説：**体言「花」の前。「春の野に咲いているような花を見たいなあ」。

Q43. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

我が思ふ人は、いまいかにしたる**らむ**。

答え：現在推量 **解説：**「いかに」（どのように）は様子をたずねる語で、理由はたずねていないので現在推量（疑問）。サ変「す」連用形「し」＋完了「たり」連体形「たる」＋「らむ」（「たり」はラ変型なので連体形に付く）。「私の思う人は、今ごろどのようにしているのだろうか」。

Q44. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

風吹く**らむ**山の梢。

答え：婉曲 **解説：**体言「梢」の前。「風が吹いているような山の梢」。

Q45. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

都人は雪を見て、何思ふ**らむ**。

答え：現在推量 **解説：**「何」は思っている中身をたずねる語で、理由はたずねていないので現在推量（疑問）。目の前にいない都の人の今の心を思いやっている。「都の人は雪を見て、（今ごろ）何を思っているのだろうか」。

Q46. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

いま、都に紅葉散る**らむ**。

答え：現在推量 **解説：**「いま」＋文末。「今ごろ都に紅葉が散っているだろう」。

Q47. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

なほ嘆かる**らむ**思ひ。

答え：婉曲 **解説：**体言「思ひ」の前。「なお嘆かれているような思い」。

Q48. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

何の故にて、君は怒り給ふ**らむ**。

答え：原因推量 **解説：**「何の故にて」(=どんな理由で) + 「らむ」。「どんな理由で、あなたはお怒りになるのだろうか」。

Q49. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

月かげ、雲に隠る**らむ**夜は、心細し。

答え：婉曲 **解説：**体言「夜」の前。下二段動詞「隠る」終止形+「らむ」(連体形「隠るる」には付かない)。「月の光が雲に隠れているような夜は、心細い」。

Q50. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

京の人は、今、何作る**らむ**。

答え：現在推量 **解説：**「何」は作っている物をたずねる語で、理由はたずねていないので現在推量(疑問)。目の前にいない京の人の今を思いやっている。「京の人は、今ごろ何を作っているのだろうか」。

標準編 / 30

【第3部】 応用編 (Q51~Q80)

引用構文、和歌、敬語の組み合わせを含む応用問題。

Q51. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

春日野の若菜つみにや白妙の袖ふりはへて人のゆく**らむ** (古今集・紀貫之)

答え：原因推量 **解説：**人々が白い袖を振って出かけていくという目の前の事実について、その理由を「若菜つみにや」(若菜を摘みに行くからだろうか)と推し量っているので原因推量。「人のゆく」こと自体を推量しているのではない。四段動詞「ゆく」終止形+「らむ」。「春日野の若菜を摘みに行くからだろうか、白い袖をわざわざ振りながら人々が出かけていくのは」。

Q52. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

嵐山の紅葉、いま錦のごとしと人皆言ふ**らむ**。

答え：現在推量 **解説：**文末。目の前にいない人々が今言っていることを思いやる現在推量。「嵐山の紅葉は今ごろ錦のようだと、人々が皆言っているだろう」。

Q53. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

月の都の人にある**らむ**と思ふ。

答え：現在推量 **解説：**「ある」(ラ変連体) + 「らむ」 + 引用「と」。「月の都の人であるのだろうと思う」。

Q54. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

雲深き夜なるに、月さやかに見ゆ。いかで見ゆ**らむ**。

答え：原因推量 **解説：**前の文に月が見えるという事実があり、「いかで」(=どうして)でその理由をたずねるので原因推量。下二段動詞「見ゆ」終止形 + 「らむ」(連体形「見ゆる」には付かない)。「雲の深い夜なのに、月がはっきり見える。どうして見えるのだろう」。

Q55. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

都人いま秋の風を聞**くらむ**。

答え：現在推量 **解説：**「いま」 + 文末。「都人は今ごろ秋の風を聞いているだろう」。

Q56. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

心知る**らむ**人にこそ、語らはめ。

答え：婉曲 **解説：**体言「人」の前 + 係助詞「こそ」 + 已然「語らはめ」(こそこの結び)。「心を知っているような人にこそ、語ろう」。

Q57. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

ひさかたの光のどけき春の日にしづ心なく花の散る**らむ**(古今集・紀友則)

答え：原因推量 **解説：**疑問の語はないが、「どうして」を補って訳す。目の前で花が散っているという事実の理由を推し量っているので原因推量。四段動詞「散る」終止形 + 「らむ」。「日の光がのどかな春の日に、どうして落ち着いた心もなく花が散っているのだろう」。

Q58. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

はや秋来たるらむ野辺の色。

答え：婉曲 **解説：**体言「野辺」の前なので婉曲。四段動詞「来たる」終止形＋「らむ」。「もう秋が来ているような野辺の色」。なお「来たらむ」と書くと、「来たら」（「来たる」の未然形）＋推量「む」で、「らむ」ではない。

Q59. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

いかで秋風は人の心を吹くらむ。

答え：原因推量 **解説：**「いかで」（古文の疑問副詞「どうして」）と呼応。「どうして秋風は人の心を吹くのだろう」。

Q60. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

嘆かるらむ心、いかにせむ。

答え：婉曲 **解説：**体言「心」の前。「嘆かれているような心を、どうしようか」。

Q61. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

海に出でて漁すらむ人ぞ多き。

答え：婉曲 **解説：**体言「人」の前。「海に出て漁をしているような人が多い」（サ変「漁す」終止形＋らむ）。

Q62. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

何ゆゑに嘆くらむと人問ふ。

答え：原因推量 **解説：**「何ゆゑに」＋「らむ」＋引用「と」。「『どうして嘆くのだろう』と人が尋ねる」。

Q63. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

都の春、今は盛りなるらむ。

答え：現在推量 解説：文末で、目の前にない都の今を思いやる現在推量。断定「なり」連体形「なる」＋「らむ」（う変型なので連体形に付く）。「都の春は、今ごろ盛りであろう」。

Q64. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

心ばそく住むらむ山里。

答え：婉曲 解説：体言「山里」の前。「心細く住んでいるような山里」。

Q65. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

行く春は、今いつかたに行くらむ。

答え：現在推量 解説：「いつかた」（どちら・どこ）は場所をたずねる語で、理由はたずねていないので現在推量（疑問）。「過ぎ行く春は、今ごろどこへ行くのだろうか」。

Q66. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

夢の中にて会ふらむ人。

答え：婉曲 解説：体言「人」の前。「夢の中で会っているような人」。

Q67. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

仏に祈り給ふらむ心ぞ尊き。

答え：婉曲 解説：体言「心」の前。「仏にお祈りなさっているようなお心は尊い」。

Q68. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

など、かく急ぎ給ふらむと思ふ。

答え：原因推量 解説：「など」（＝どうして）と呼応し、急いでいるという目の前の事実の理由をたずねるので原因推量。四段動詞「急ぐ」連用形「急ぎ」＋尊敬の補助動詞「給ふ」終止形＋「らむ」。「どうしてこんなに急いでいらっしゃるのだろう、と思う」。

Q69. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

都の人は風雅を解す**らむ**。

答え：現在推量 **解説：**文末。「都の人は今ごろ風雅を理解しているだろう」（サ変「解す」終止形＋らむ）。

Q70. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

かの人、我が心をよく知れり。いかでか知る**らむ**。

答え：原因推量 **解説：**「いかでか」（＝どうして）と呼応し、あの人が私の心を知っているという事実の理由をたずねるので原因推量。「か」は疑問の係助詞で、結びは連体形「らむ」。「あの人は私の心をよく知っている。どうして知っているのだろう」。

Q71. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

嵐に倒る**らむ**木。

答え：婉曲 **解説：**体言「木」の前。「嵐で倒れているような木」（下二段「倒る」終止形＋らむ）。

Q72. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

風吹けば波立つ**らむ**海辺の人ぞ恋しき。

答え：婉曲 **解説：**体言「海辺」の前なので婉曲。係助詞「ぞ」の結びなので、形容詞「恋し」は連体形「恋しき」。「風が吹くと波が立つような海辺の人が恋しい」。

Q73. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

幼き子、「母は、いま何をかす**らむ**」と問ふ。

答え：現在推量 **解説：**「何」はしていることの中身をたずねる語で、理由はたずねていないので現在推量（疑問）。「か」は疑問の係助詞で、結びは連体形「らむ」。サ変「す」終止形＋「らむ」（連体形「する」には付かない）。「幼い子が『お母さんは今ごろ何をしているのだろう』と尋ねる」。

Q74. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

春の山に響く**らむ**鳥の声。

答え：婉曲 解説：体言「鳥の声」の前。「春の山に響いているような鳥の声」。

Q75. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

都の方角、いま雲かかるらむ。

答え：現在推量 解説：「いま」＋文末。「都の方角に、今ごろ雲がかかっているだろう」。

Q76. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

いかで秋風は身にしむらむ。

答え：原因推量 解説：「いかで」＋「らむ」。「どうして秋風はこんなにも身にしむのだろうか」。

Q77. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

月の光、はるかに照らすらむ野。

答え：婉曲 解説：体言「野」の前。「月の光がはるかに照らしているような野」。

Q78. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

故郷を想ふらむ夜半に、月清く照る。

答え：婉曲 解説：体言「夜半」の前。「故郷を想っているような夜中に、月が清らかに照る」。

Q79. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

鶯さへづるらむ春の朝。

答え：婉曲 解説：体言「春の朝」の前。「鶯がさえずっているような春の朝」。

Q80. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

雪深き山にこもるらむ人。

答え：婉曲 解説：体言「人」の前。「雪深い山にこもっているような人」。

【第4部】入試レベル（Q81～Q100）

Q81. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

憶良らは今は罷らむ子泣くらむそれその母も我を待つらむそ（万葉集・山上憶良）

答え：現在推量 **解説：**宴の席から、家にいて目に見えない子の今のようなすを思っているので現在推量。四段動詞「泣く」終止形＋「らむ」。はじめの「罷らむ」は、四段動詞「罷る」未然形「罷ら」＋意志「む」で、「らむ」ではない。文末の「そ」は、強めの「ぞ」の古い形。「私憶良めは、もう失礼いたしましょう。（家では今ごろ）子が泣いているでしょう。その子の母も私を待っているでしょうよ」。

Q82. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

かかる所にとどまるらむ人、いかに心細からむ。

答え：婉曲 **解説：**体言「人」の前なので婉曲。「このような所にとどまっているような人は、どんなに心細いことだろう」。後の「心細からむ」は、形容詞「心細し」未然形「心細から」＋推量「む」で、「らむ」ではない。

Q83. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

雪いたく降りぬ。山里はいかならむ。道も絶えぬらむと思ひやる。

答え：現在推量 **解説：**目の前にない山里の今を思っているので現在推量。下二段動詞「絶ゆ」連用形「絶え」＋完了「ぬ」終止形＋「らむ」。前の「いかならむ」は、形容動詞「いかなり」未然形「いかなら」＋推量「む」で、「らむ」ではない。「雪がひどく降った。山里はどんなようすだろう。（今ごろは）道も途絶えてしまっているだろうと思ひやる」。

Q84. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

山里に住むらむ人は、今宵の月をいかに見るらむ。

答え：前の「らむ」＝婉曲／後の「らむ」＝現在推量 **解説：**前の「らむ」は体言「人」の前なので婉曲。後の「らむ」は文末で、「いかに」（どのように）は様子をたずねる語なので現在推量（疑問）。「山里に住んでいるような人は、今夜の月をどのように見ているのだろうか」。

Q85. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

行く春に、我が涙止まざる**らむ**。

答え：原因推量 **解説：**疑問の語はないが、自分の涙が止まらないという目の前の事実について、「どうして」を補って理由を推し量っているので原因推量。四段動詞「止む」未然形「止ま」＋打消「ず」連体形「ざる」＋「らむ」。「過ぎ行く春に、どうして私の涙は止まらないのだろう」。

Q86. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

月の都にある**らむ**宮をば、世の人は誰も知らず。

答え：婉曲 **解説：**体言「宮」の前なので婉曲。ラ変「あり」連体形「ある」＋「らむ」（ラ変型の語には連体形に付く）。「月の都にあるとかいう宮殿を、世の人は誰も知らない」。

Q87. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

いみじき宿世の人にある**らむ**を、いかでかかる目に遭ふ。

答え：現在推量 **解説：**「を」は逆接の接続助詞（～のに）で、体言に係っていないので婉曲ではない。ラ変「あり」連体形「ある」＋「らむ」で、今の身の上を推し量る現在推量。「並々ならぬ宿縁の人であろうに、どうしてこのような目に遭うのか」。

Q88. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

ねぶたしと言へど、なほ筆を取り、何書く**らむ**。

答え：現在推量 **解説：**「何」は書いている中身をたずねる語で、理由はたずねていないので現在推量（疑問）。四段動詞「書く」終止形＋「らむ」。「眠いと言いながら、なお筆を取って、何を書いているのだろうか」。

Q89. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

鳥のさへづり、心地よく聞こゆ**らむ**朝。

答え：婉曲 **解説：**体言「朝」の前。下二段動詞「聞こゆ」終止形＋「らむ」。「鳥のさえずりが心地よく聞こえるような朝」。

Q90. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

物のあはれを知らぬ人にあらざる**らむ**。

答え：現在推量 **解説：**「あら」未然＋打消「ず」連体「ざる」＋「らむ」。「物のあわれを知らない人ではないのだろう」（現在推量）。

Q91. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

夏の夜はまだ宵ながら明けぬるを雲のいづこに月やどる**らむ**（古今集・清原深養父）

答え：現在推量 **解説：**「いづこ」（どこ）は場所をたずねる語で、理由はたずねていないので現在推量（疑問）。見えなくなった月が、今ごろ雲のどこに宿っているのかと思いやっている。四段動詞「やどる」終止形＋「らむ」。「夏の夜は、まだ宵のうちと思っているうちに明けてしまったが、月は雲のどこに宿っているのだろうか」。

Q92. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

春のあけぼの、空おぼろに霞む**らむ**山際。

答え：婉曲 **解説：**体言「山際」の前。「春のあけぼの、空がほのぼの霞んでいるような山際」。

Q93. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

世の人の語る**らむ**ことを、みなまことと思ふべからず。

答え：婉曲 **解説：**体言「こと」の前なので婉曲。四段動詞「語る」終止形＋「らむ」。「世間の人が話しているようなことを、すべて本当だと思ってはならない」。

Q94. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

いかにして都人もこの花を見る**らむ**と思ひやる。

答え：現在推量 **解説：**「いかにして」（どのようにして）はやり方をたずねる語で、理由はたずねていないので現在推量（疑問）。目の前にいない都の人の今を思いやっている。「どのようにして都の人もこの花を見ているのだろうかと思ひやる」。

Q95. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

月の都に住みける人、いまも生き給ふ**らむ**。

答え：現在推量 **解説：**文末。「月の都に住んでいた人は、今もご存命であろう」。

Q96. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

雨に濡る**らむ**枝の花よ、な散りそ。

答え：婉曲 **解説：**「らむ」は終止形接続。下二段動詞「濡る」終止形＋「らむ」。体言「枝」の前なので婉曲。「な～そ」は禁止。「雨に濡れているような枝の花よ、散らないでくれ」。下二段連体形「濡るる」＋らむは誤り。

Q97. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

思ひつつ寝ればや人の見えつ**らむ**夢と知りせばさめざらましを（古今集・小野小町）

答え：原因推量 **解説：**あの人夢に見えたという事実について、その理由を「寝ればや」（寝たからだろうか）と推し量っているのが原因推量。「や」は疑問の係助詞で、結びは連体形「らむ」。下二段動詞「見ゆ」連用形「見え」＋完了「つ」終止形＋「らむ」。「あの人を思いながら寝たから、あの人夢に見えたのだろうか。夢と知っていたなら、目を覚まさないでよかったらうに」。

Q98. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

我が背子はいづく行くらむ沖つ藻の名張の山を今日か越ゆ**らむ**（万葉集）

答え：現在推量 **解説：**「らむ」は終止形接続。下二段動詞「越ゆ」終止形＋「らむ」（連体形「越ゆる」には付かない）。「か」は疑問の係助詞で、結びは連体形「らむ」。旅に出て目に見えない夫の今を思いやっているので現在推量（はじめの「いづく行くらむ」も、場所をたずねる現在推量）。「私の夫は今ごろどのあたりを旅しているのだろうか。名張の山を今日あたり越えているのだろうか」。

Q99. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

命も惜しまず唐土に向かふ**らむ**人。

答え：婉曲 **解説：**「向かふ」（四段終止）＋「らむ」＋体言「人」なので婉曲。「命も惜しまずに中国へ向かっているような人」。

Q100. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

物のあはれを知らむ人にこそ、なほ嘆かる**らめ**。

答え：現在推量（係り結び） **解説：**係助詞「こそ」の結びは已然形なので「らむ」→「らめ」。「物のあわれを知っているような人にこそ、なお嘆かれているのだろう」。

入試レベル / 20

合計 / 100

あとがき

「らむ」の識別の核心： - **直後を見る**：体言→婉曲、文末→推量 - **疑問の語を見る**：「など・なぜ・いかで（どうして）」なら原因推量。「いづこ・何・いかに（どのように）」など場所・中身・様子をたずねるだけなら現在推量。疑問の語がなくても「どうして」を補って通れば原因推量 - 「**今ごろ**」を**当ててみる**：「今ごろ～ているだろう」と訳して通れば現在推量

「らむ」は **今のことを推し量る** 助動詞（目に見えない所の今を思いやる／目の前の事実の理由を推し量る）。体言の前では「～ような・～とかいう」（伝聞・婉曲）になる。「けむ」（過去推量）「べし」（推量全般）と混同しないこと。

著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太